地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み①（松前地域）

●漁港水域を活用した増養殖漁業の展開（魚類養殖事業）（継続）

（1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan）		
地域 MV における取組の位置付け	**【地域の将来像】** 住み続けたい街の実現に向けて、漁港水域等を利用した増養殖業の展開。 **【主な取組】** 漁港水域を活用した増養殖漁業の展開に取組むため、短期では現行魚種を含めた対象魚種、養殖施設・資材・種苗・餌料等の検討を行い、中期では養殖試験の実施、生産目標の設定、採算性の検証、水域の環境改善に取組、長期においては事業化の推進に取組む。	取組場所 ・魚類養殖は管内７漁港において実施・代表として江良漁港を掲載。
取組内容に関連する実施の現状と課題	・現状：漁獲量の変動多く、漁業者の減少・高齢化が著しい。漁港水域内で魚類、ウニ、ナマコなどの増養殖事業を実施。 ・課題：漁家収入の拡大安定化、増養殖生産体制の構築強化、海面養殖事業の展開。	
取組による効果（数値目標）	・数値目標：生産量２０ｔ/年、生産額 50,000 千円/年（ウニ、魚類、ナマコ等合わせて）	
（2）取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	**【取組内容】ホッケ養殖** **【方法・手順】海中生簀に 250ｇ程度のホッケを前年 11 月頃に収容し、給餌管理を実施。翌年 5 月頃までに肥育したホッケを出荷した。** **また、７年 10～11 月にもホッケを収容し、8 年 5 月頃までの出荷を目指し飼育管理を開始していたところ。** **【実施体制】実施地区は、江良漁港をはじめとして茂草、静浦（赤神分区）、札前、館浜、大沢朝日（大沢）、白神漁港の７地区で実施。** **監理体制として、江良漁港の場合は江良蓄養施設監理委員会、魚類養殖部会、ビジョン協議会が協調して実施し、江良以外の地区では、漁業者が中心となり、魚類養殖部会、ビジョン協議会が協調して実施している。** **また、魚体測定、育成管理、水質調査等では北海道渡島地区水産技術普及指導所松前支所の指導を受けている。**	
（3）効果項目に対する評価（Check）		
数値目標の達成度評価	【令和 6 年末収容、７年春期出荷】（７地区）鮮魚出荷：2,937 kg、1,752 千円　活魚出荷：7,931 kg、6,125 千円　計 10,868 kg、7,877 千円 【令和 7 年末収容、８年春期出荷予定】令和 8 年出荷を目指していたが、一部で大量に漁港に侵入しへい死したイワシの被害を受けた。 （被害状況は１月下旬現在取り纏め中。）	
反省点	・イワシ大量来遊、へい死は想定していなかったため、対策を立てることができなかった。	
（4）取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	・冬期間のイワシの大量侵入・へい死が恒常化する恐れもあるため、養殖施設周辺又は港内への侵入を防止する対策が必要。	
取組の実施に必要なもの	・漁船等の航行の障害とならないような侵入防止用漁網等の敷設。	

関連資料

【取組の様子】

・出荷時の選別状況

・箱詰めの状況
（鰓蓋に「松前産エラ〆鮭春一番」のパッチ装着）

・イワシ侵入・へい死状況

地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み②（松前地域）

●漁港水域を活用した増養殖漁業の展開（ウニ養殖事業）（継続）

（1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan）		
地域 MV における取組の位置付け	**【地域の将来像】** 住み続けたい街の実現に向けて、漁港水域等を利用した増養殖業の展開。 **【主な取組】** 漁港水域を活用した増養殖漁業の展開に取組むため、短期では現行魚種を含めた対象魚種、養殖施設・資材・種苗・餌料等の検討を行い、中期では養殖試験の実施、生産目標の設定、採算性の検証、水域の環境改善に取組、長期においては事業化の推進に取組む。	取組場所 ・ウニ養殖事業は 11 地区で実施。 代表で江良漁港を掲載。
取組内容に関連する実施の現状と課題	・現状：漁獲量の変動多く、漁業者の減少・高齢化が著しい。漁港水域内で魚類、ウニ、ナマコなどの増養殖事業を実施。 ・課題：漁家収入の拡大安定化、増養殖生産体制の構築強化、海面養殖事業の展開。	
取組による効果（数値目標）	・数値目標：生産量２０ｔ/年、生産額 50,000 千円/年（ウニ、魚類、ナマコ等合わせて）	
（2）取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	**【取組内容】　キタムラサキウニの養殖** **【方法・手順】方法：漁具の届かない水深帯のウニを潜水士等により採取。蓄養水面内、養殖施設内に移殖し、コンブ等を給餌して肥育。** **手順：１０月頃：キタムラサキウニを採取移殖した後、給餌管理開始。随時、身質・歩留まり等調査を実施。** **翌年５～７月：水揚げ、殻付き出荷。** **【実施体制】漁協が事業主体となり、潜水士による移植を実施。移植後は各地区ウニ部会が中心となり、協議会・漁協・町と協調しながら給餌管理から水揚げまでを実施。移殖数量の設定から給餌管理に当たっては渡島地区水産技術普及指導所松前支所の指導を受けて実施している。**	
（3）効果項目に対する評価（Check）		
数値目標の達成度評価	【令和６年収容、７年出荷】計１１地区、移殖数量 38.5ｔ、水揚量 28,778 kg、45,922 千円 【令和７年収容、８年出荷予定】計１０地区、移殖数量 37.5ｔ	
反省点	・令和７年１２月末から漁港内へのイワシの大量侵入、へい死がみられ、地区によっては被害があるものと考えられる。	
（4）取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	・冬期間のイワシの大量侵入・へい死が恒常化する恐れもあるため、養殖施設周辺又は港内への侵入を防止する対策が必要。	
取組の実施に必要なもの	・給餌管理の漁船等の障害とならないような侵入防止用漁網等の敷設。	

関連資料

【取組の様子】

・取上げ時の状況

・同上

・魚籠に収容、出荷

・令和 7 年末イワシ侵入・へい死の様子（江良漁港蓄養水面）

・イワシへい死後の油

地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み③（松前地域）

●漁港水域を活用した増養殖漁業の展開（ナマコ増養殖事業）（継続）

（1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan）

地域 MV における取組の位置付け	**【地域の将来像】** 住み続けたい街の実現に向けて、漁港水域等を利用した増養殖業の展開。 **【主な取組】** 漁港水域を活用した増養殖漁業の展開に取組むため、短期では現行魚種を含めた対象魚種、養殖施設・資材・種苗・餌料等の検討を行い、中期では養殖試験の実施、生産目標の設定、採算性の検証、水域の環境改善に取組、長期においては事業化の推進に取組む。
取組場所	ナマコ事業は 12 地区で実施しており、代表として江良漁港を掲載。
取組内容に関連する実施の現状と課題	・現状：漁獲量の変動多く、漁業者の減少・高齢化が著しい。漁港水域内で魚類、ウニ、ナマコなどの増養殖事業を実施。 ・課題：漁家収入の拡大安定化、増養殖生産体制の構築強化、海面養殖事業の展開。
取組による効果（数値目標）	・数値目標：生産量２０ｔ/年、生産額 50,000 千円/年（ウニ、魚類、ナマコ等合わせて） 7 年放流種苗は３～４年後の漁獲が期待されている。

（2）取組内容・実施体制（Do）

取組内容、方法、手順、実施体制	**【取組内容】ナマコ増殖事業の実施** **【方法・手順】方法：道栽培公社、ひやま漁協産マナマコ種苗を漁港内に放流。重ねて、各地区で簡易採卵された幼生を放流。** **手順：公社等産種苗：11 月漁協、協議会により 30 ㎜種苗輸送。各地区に配布した後、ダイバーにより種苗放流。** **簡易採卵幼生：町が親ナマコの提供を受け、7～8 月に町施設で採卵した後、各地区に配布。地区毎にある施設で育成した後、10～11 月港内水域に付着基質を垂下。** **【実施体制】種苗の搬入、放流、簡易採卵、追跡調査等はいずれも北海道渡島地区水産技術普及指導所松前支所の指導を受けてながら、漁協、町、各地区漁業者、協議会が協業して実施している。**

（3）効果項目に対する評価（Check）

数値目標の達成度評価	【令和７年放流数】公社産等種苗(30 ㎜種苗)：180,000 尾(１２地区)、簡易採卵幼生(着底直後)：92,000 個体(２地区)
反省点	・近年の海洋環境の変化によるものか町施設での採卵用親ナマコの確保が難しかった。 ・令和７年１２月末から漁港内へのイワシの大量侵入、へい死がみられ、地区によっては被害があるものと考えられる。

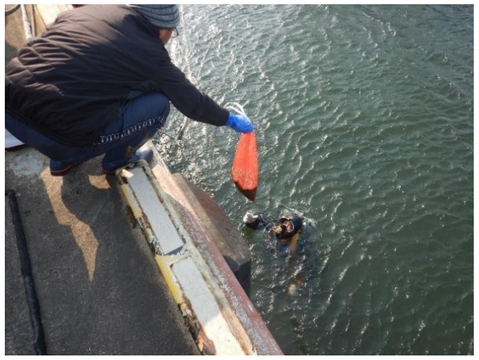
（4）取組の改善措置（Action）

取組内容の改善点	・冬期間のイワシの大量侵入・へい死が恒常化する恐れもあるため、放流区域周辺又は港内への侵入を防止する対策が必要。 **・親ナマコ採取時期の検討**
取組の実施に必要なもの	・漁船等の航行の障害とならないような放流区域への侵入防止用漁網等の敷設。 **・水温等沿岸環境の把握とナマコの成熟状況の十分な確認。**

関連資料

【取組の様子】

・放流時種苗の確認



・ダイバーによる放流

・放流後の種苗の状況(小型のナマコが放流種苗)

2. 地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み④

●人材（漁業就業者）の育成（継続）

（1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan）		
地域 MV における取組の位置付け	**【地域の将来像】** 住み続けたい街の実現に向けて、人材（漁業就業者）の育成に取り組む。 **【主な取組】** 人材（漁業就業者）の育成に取組む。短期には小中高生を対象とした漁業・水産業の教育や魅力の発信に取り組み、中期には町内外に対する漁業就業者支援制度の周知やＰＲを行い、長期的には町内外からの漁業就業者抜け入れを行う。	取組場所 ・漁業体験実施個所として江良漁港を掲載
取組内容に関連する実施の現状と課題	・町内小中高生を対象に漁業体験、食育授業を実施しているところだが、高校入学時には町外の高校に進学する中学生が５割程度いる現状にある。	
取組による効果（数値目標）	・受入就業者数の増加	
（2）取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	**【取組内容】町内小中学生を対象とした、漁業体験授業の実施。** **国就業支援事業の活用及び町就業支援事業の実施と活用。** **【実施体制】・渡島西部地区漁業士会及びマリンビジョン協議会により町内３小学校を対象にウニ採り漁業体験及び食育授業を実施した。** **・漁業就業フェアを利用して町内業者が運営するコンブ養殖漁業に就業者を募集。マリンビジョン協議会としてもフェアに参加、ＰＲに協力。町独自の就業支援事業も町、漁協、協議会が合同でＰＲし、実施に取組んだ。**	
（3）効果項目に対する評価（Check）		
数値目標の達成度評価	・漁業体験授業から食育への取り組みは町内小学校が実施日程を合わせて合同で実施することができた。 ・町就業支援事業では２名の新規就業者が対象となった。	
反省点	・体験事業では複数の学校を対象とするため実施日程の調整が困難であった。予備日の設定ができなかったため実施当日は天候不順により船上での漁業体験が出来なかった。 ・就業支援事業では後続の対象者の掘り起こしに苦慮しているところ。	
（4）取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	・余裕を持った日程の設定。 ・漁業就業フェア、就業支援事業の利用者の増加。	
取組の実施に必要なもの	・学校、協議会、漁業士会の十分な協議 ・漁業就業フェアの活用。就業支援事業の周知拡大。	

関連資料

【取組の様子】

・渡島地区水産技術普及所松前支所長によるウニ漁業についての説明

・漁業士による漁法の説明

・普及所、漁業者、町水産係によるウニ割りの指導